令和5年度(令和4年度実施事業分) 主要事業評価各課総括表・2次評価表

2次評価者

病院事務局管理課

病院事務局長 竹内 甲司

整理No	主要事業名	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
		自己評価	評価内容	方向性	内容
38-1	病院経営事業	A	<p>新型コロナウイルス感染症が感染の拡大と収束を繰り返す中で、地域の基幹病院としての役割を全うすべく、3次救急医療用の病床確保や臨時的なコロナ専用病床を設置するなどして感染拡大に対処した。特に常滑市民病院とは、限られた人員・医療環境の中で地域医療を守るために両病院で緊密な医療連携・機能分担を行い、救急医療と感染症医療を両立させるとともに、より高度急性期に特化した医療を提供することで収益を伸ばし、光熱費の高騰が経営を圧迫する中においても、経常収支比率（107.4%：目標101%）、医療収支比率（103.8%：目標104%）の黒字計上を達成することができた。</p> <p>今後に向けては、新型コロナウイルス感染症の影響による患者の行動変容や世界情勢による経済状況の変化など、病院を取り巻く経営環境が厳しくなることが予想される中で、より一層経営基盤の強化に向けた取組を行っていく必要がある。</p>	改善推進	<p>圏域の医療機関等はもとより、令和7年4月に経営統合する常滑市民病院との機能分担や診療体制の合理化を推進することで、地域に求められる医療、より質の高い医療を提供することにより収益を確保していく。</p>
38-2	新病院建設事業	B	<p>設計者と施工予定者、エネルギーサービス事業予定者とともに事務局会議、各種分科会、運用ワーキンググループを開催し、新病院の設計に必要な詳細な情報・運用方法を共有し、実施設計を完了することができた。建設資材の価格高騰については、刊行物等から適正な価格を確認し、補正予算で対応した。資材の納期の長期化については、施工予定者と協議のうえ、先行手配することで工期を遅延することなく資材確保することができた。</p> <p>半田病院と常滑市民病院の地方独立行政法人化・経営統合に向け、知多半島総合医療機構設立準備会議等で新法人の診療機能分担案など様々な課題等について協議し、半田市立半田病院・常滑市民病院統合会議において決議を得た。また、診療機能分担案について、知多半島構想区域地域医療構想推進委員会等に報告、承認を得た。</p>	現状維持	<p>令和7年度春の開院に向け、各種法令等に適合するよう新病院を建設し、建築基準法の規定による検査済証、病院開設許可の交付を受ける。</p> <p>知多半島総合医療機構設立準備会議及び病院経営統合準備会議等において、令和7年4月の経営統合、地方独立行政法人化に向けて引き続き課題整理を行い、協議する。</p>
38-3	医療機器等購入事業	B	<p>新病院で利用可能な高度医療機器について、購入計画通りに整備することが出来た。</p>	縮小	<p>現病院における新病院で利用可能な高度医療機器の整備については、令和5年度末までの予定である。</p>

課等長	1次評価（令和4年度の総括評価） 新型コロナの流行により、地域医療は2度にわたって崩壊の危機に直面したが、救急病床の確保やコロナ専用病床の拡大などの臨時的対応を施し、救急医療を維持し、かつ医療崩壊の危機も乗り切ることができた。また、前述の状況に加え、光熱費の記録的な値上がりが経営を圧迫する中、約11億円の純利益（見込）と医業収支における13年連続の黒字を計上できたことは、病院全体が一丸となって経営改善に取り組んだ結果と評価している。新病院建設工事は、造成工事及び本体工事に着手し、概ね順調に進捗しているが、建設資材の高騰や金利の上昇など望ましくない社会経済状況は継続している。常滑市民病院との経営統合では、統合準備室を開設し、統合にあたっての諸課題の議論を深めた結果、新たな課題も多く生じているが、スピード感をもって課題解決にあたっている。
A	
部等長	2次評価（令和4年度の総括評価並びに今後の方針及び指示事項） 収束しないコロナ禍、診療材料・光熱水費を始めとする物価高騰など厳しい社会情勢の中、困難な病院運営を強いられたが、加算の取得など適切な診療報酬の確保や経費節減努力により黒字を確保することができた。これは強い経営体質を作りあげてきたこれまでの努力の積み重ねが実を結んだものと評価できる。経営統合・独立行政法人化を見据えて引き続き経営改善に取り組んでいく必要がある。新病院建設についても建設資材・人件費の高騰で厳しい条件下であったが、スケジュールに遅れを生ずることなく進捗することができた。経営統合・独立行政法人化については、新たな課題が生じるのは議論を深めた結果であり、引き続き粘り強く精力的に進めていく必要がある。
A	